

西谷文和さん講演会

12月5日フリージャーナリストの西谷文和さんをお迎えして『アフガンで何が起きているのか？ ～世界の中の「憲法9条」～』と題して講演会を開催しました。京都や大阪、加古川など遠方からや当会の催しに初参加の方も多く、91名の参加で盛況裡に終わることができました。

西谷さんはアフガンに合計11回入国し4人の通訳の方と知り合いになったが、そのうち2人は国外に亡命、1人は行方不明のまま。残った1人から送られたスマホの写真(8月にタリバンにより陥落しパニックになった首都カブールなど)を始め、臨場感あふれるビデオ映像、ユーモアを交えながらの語り口に参加者は聞き入り、引き込まれていきました。

2年前に殺害された中村哲さんにも話が及び、平和憲法9条を見事に実践して、東京ドーム3千個以上の砂漠を緑の大地に変え、65万のアフガンの人々の命を救った中村さんの活動に私たちは学ぶべきで、中村さんの活動を評価しない我が国政府はけしからん、と。

西谷さんが出会ったタリバン幹部の一人がなんと日本の憲法9条を知っていて、「その考え方はとても素晴らしい」と話してくれたことなど、アフガンの現状を知るとともに、平和憲法の大切さをあらためて認識しました。

また、先の衆議院選挙でなぜ維新が議席を大きく増やしたのか、その背景など維新の負の部分について分析し、新たな希望と展望を示していただいた。

最後に、参加者のお一人からいただいた葉書の一部を紹介します。

「西谷さんのジャーナリスト目線はすばらしく輝いていた。(中略)アフガンの実情に迫り、各国の様子など多岐にわたり充実したテンポの良い語り口、映像などに圧倒されました。」(片岡 隆 記)

※本記事は「九条の会」(全国)ニュースにも掲載されています。

「イラクの子どもを救う会」にカンパをしました

西谷さんが発行人となっている「イラクの子どもを救う会ニュース」を当日資料として配布しました。その編集後記に次の様な記事がありました。

「(通訳の) アブドラからの写真と動画に胸を締めつけられています。見覚えのあるカブールの公園や国道沿いに、多くの避難民がテントを張って生活しています。標高1800メートルのカブール、夏は涼しく過ごしやすいのですが冬は極寒。零下20度まで下がる雪と氷の世界で、いったいこの人たちはどうなってしまおうのでしょうか？アブドラは外国に逃げずに、取材と支援を続けると言っていますので至急、日本からの支援金を送付します。ぜひ緊急援助活動へ、ご協力をお願いします。」

講演会でも参加の皆さんにカンパをお願いし、27300円を西谷さんに渡しました。

～署名のお願い～

「憲法改悪を許さない全国署名」を同封しています。ぜひ多くの方に署名をして頂くようお願いいたします。お手数ですが、芦屋「九条の会」世話人にお渡しいただくか、下記へご郵送ください。

〒659-0091 芦屋市東山町 1-3 片岡隆

～カンパのご協力のお礼～

11月末にお願いいたしましたカンパにご協力をいただき本当にありがとうございました。

引き続きお受けしておりますので、よろしくお願いいたします。

芦屋「九条の会」

代表 久保富三夫